

新潟市 浸水ハザードマップ (南区)

保存版(案)

いざという時に確認できるように他の防災マップと合わせて保管しましょう



①平成23年7月28日浸水被害状況 ②③平成10年8月4日浸水被害状況

・浸水(内水氾濫)とは、降った雨が流れる場を失って、あふれる現象をいいます。本マップは南区浸水(内水氾濫)を表しています。
 ・河川の堤防の決壊などによる洪水の場合は、「新潟市総合ハザードマップ」(平成30年3月)を参考にしてください。

本マップ及び下水道計画についての
お問い合わせ先
新潟市 下水道部 下水道計画課
TEL:025-226-2979
URL: <http://www.city.niigata.lg.jp/shisei/soshiki/soshikiinfo/gesuido/keikaku.html>



R1・7月版

新潟市下水道課+ラクター=水まぼろし

新潟市浸水ハザードマップの目的

近年、下水道の雨水排水能力を超える局地的な集中豪雨によって、大規模な浸水被害が発生する都市型水害が頻発しています。
 新潟市においても平成10、19、23年に記録した集中豪雨により、床上・床下浸水や道路冠水等の被害が多発しました。このような都市型浸水は年々増加の傾向にあります。
 都市部(市街地部)では、地表のほとんどが建物やアスファルトに覆われているため、雨水が地下にしみ込みにくく、短時間に大量の雨水が下水道、河川に集まります。雨水が下水道の能力を超え、側溝や雨水ますからあふれ、浸水被害が発生する可能性が高くなります。
 この浸水ハザードマップは、浸水区域とその深さおよび避難所などを示したものであり、市民の皆さんに自分の住んでいる場所の状況を把握してもらい、浸水被害を予防・軽減するために活用していただくものです。



新潟市浸水ハザードマップとは

ハザードマップは、下水道で整備している能力以上の大雨が降った場合に雨水があふれて発生する浸水を想定し、浸水区域とその深さを表示するとともに、浸水への対応や避難所などを示したものです。

想定条件 想定している降雨の規模は、平成10年8月4日に観測された降雨(時間最大雨量97mm・24時間降雨量265mm・新潟観測所)であり、浸水被害をもたらした降雨量です。
 ※時間最大雨量97mmの降雨とは、1時間に最大で97mmの雨が降る降雨のことです。

※本マップは、あくまでも上記の想定条件における浸水状況を予測したものであり、想定以上の雨や局所的な雨など、降り方によっては想定される浸水区域と異なることがあります。

新潟市浸水ハザードマップの作成方針

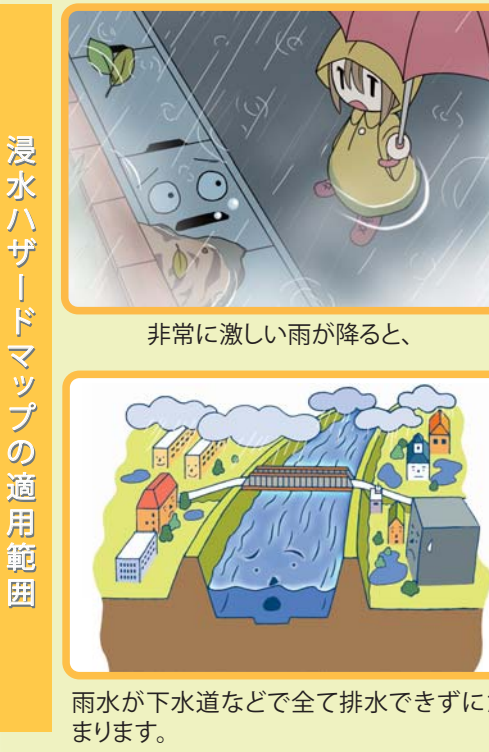
新潟市浸水ハザードマップは、これまでに床上浸水被害が大きかった地区から順次作成・公表をしていきます。
 また、浸水対策の整備が進んだ場合や流域の状況に変化があった場合には、必要に応じて随時見直し(更新)をしていきます。

浸水と洪水の違いについて

浸水ハザードマップの適用範囲は、河川の堤防の決壊や河川から溢れた水によるはん濫がはじまる前までの範囲となります。



浸水



浸水(内水はん濫)の発生

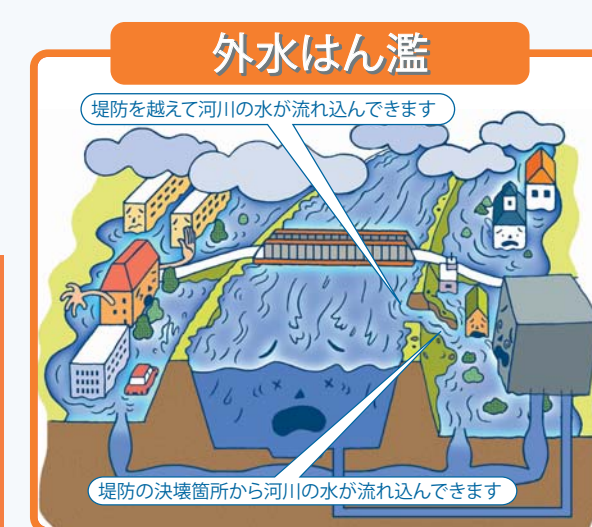


降った雨が流れる場を失って、あふれる現象を「内水はん濫」といいます。

洪水



洪水(外水はん濫)の発生



堤防から河川の水があふれだしたり、堤防が決壊するなどして、河川の水が流れ出す現象を「外水はん濫」といいます。

避難について



気象情報を確認し、万一が浸水した場合に備えて、以下の避難行動をとります。

大雨が降ってきたら

一般住宅では2階へ、集合住宅では2階以上へ避難するべく安全な場所へ一時的に避難してください。また、市が発信する避難情報に気をつけるようにしましょう。
 自分の家族や住まいだけではなく、隣近所にも目を向けましょう。特に一人暮らしの高齢者など、災害時に支援が必要となる方には、ふだんからの気配りが大切です。

半地下住宅や地下駐車場で雨が降り始めたらずくに2階へ避難してください。

地上が浸水すると一気に水が流れ込めます

地下室では外の様子が見えません

避難所へは避難情報にしかって移動してください。

避難所へは、市が発信する避難情報にしかって避難してください。避難の際には、隣近所に声をかけ、お年寄りや小さな子供、体の不自由な方に協力しながら、複数での避難を心がけてください。車による避難は、緊急車両の妨げになる可能性があるため、原則、徒歩による避難を心がけてください。



浸水すると電気が消えます

水圧でドアが開きません

危険な場所には近づかないようにしてください。

大雨の時は、川や用排水路は大変危険なので近づかないようにし、道路のアンダーパス部分は冠水で通れないこともあるので避難の際は近づかないように移動してください。
 なおポンプ場付近は、ポンプ場が停止した場合に、急激に水位が上昇する恐れがあります。建物の2階以上へ避難し、待機しつづ、市や警察、消防からの避難情報に注意してください。

雨の強さチェック

避難の心構えとして雨の様子をチェックすることが大切です。日頃から雨が降り出したら、どの程度の雨なのか観察してみてください。

<p>やや強い雨 (1時間に10~20mmの雨)</p> <p>雨の音がよく聞こえ、地面に水たまりができる場合もあります。</p>	<p>強い雨 (1時間に20~30mmの雨)</p> <p>土砂降りの雨。傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。テレビ、ラジオなどで情報を収集し、長引きそうなら注意や警戒が必要です。</p>	<p>激しい雨 (1時間に30~50mmの雨)</p> <p>バケツをひっくりかえりたような激しい雨。河川の溢水、下水のあふれ、床くずれがおこりやすくなります。建物の2階以上へ避難する準備が必要です。</p>	<p>非常に激しい雨 (1時間に50~80mmの雨)</p> <p>雨のよりに降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。道路が冠水し、水害発生危険性が高まります。速やかに建物の2階以上へ避難してください。</p>	<p>猛烈な雨 (1時間に80mm以上の雨)</p> <p>大規模な浸水が発生する恐れがあります。建物の2階以上へ避難し、待機しつづ、市や警察、消防からの避難情報に注意してください。</p>
--	--	---	---	--

日頃からの備えについて

災害は突然やってきます。被害を未然に防いだり、軽減するためには、普段から皆さんの心構えと備えが大切です。



皆さんのご協力をお願いします

お近くの雨水ますや側溝の点検・清掃

雨水ますや側溝に泥や落ち葉、ゴミが詰まると、浸水の原因になります。家の近くの雨水ますや側溝の点検・清掃にご協力をお願いします。



日頃から浸水(水害)に備えましょう

非常用食料

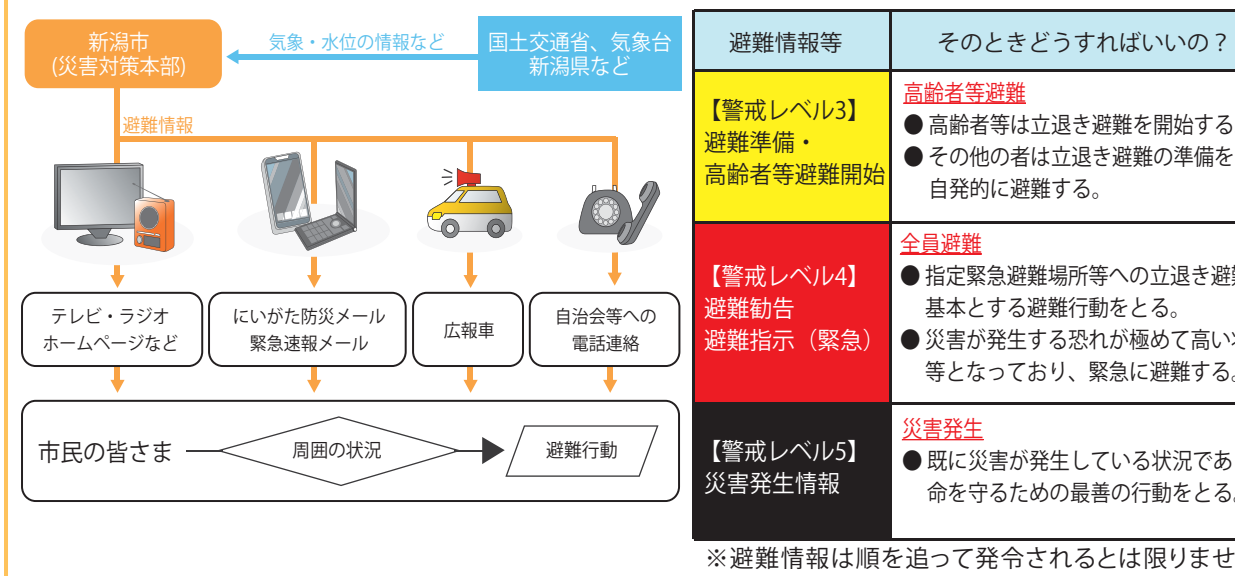
必要最低限の持ち出し品の事前準備をしておきましょう。

家のまわりを点検・整備

浸水に備えての事前準備 ※集中豪雨などの緊急時に備えて、このうを用意しています。必要ならば南区建設設備維持係(電話025-372-6661)へお問い合わせください。

水害から身を守るために、日頃からの備えをしましょう

避難情報は、気象庁や国土交通省から発表される洪水予報をもとに、新潟市より、テレビ、ラジオ、メール、市の広報車などをとおして呼びかけられます。日頃から避難情報の伝達経路を把握し、適切な避難行動がとれるよう心がけましょう。



災害情報について



気象や河川についての情報が、ホームページなどで見られます。

北陸地方、新潟県の災害情報・気象情報・河川情報など

- 国土交通省北陸地方整備局ホームページ
 - <http://www.hri.mlit.go.jp/> (信濃川、野野野川の情報は見られます)
- 国土交通省防災情報センターホームページ(川の防災情報)
 - <http://www.river.go.jp/>
 - 携帯 <http://l.river.go.jp/>
- 新潟県土木防災情報システム
 - <http://doboku-bousai.pref.niigata.jp/>
- 気象庁ホームページ
 - <http://www.jma.go.jp/>
- 新潟市気象情報サイト
 - http://dim2web03.wni.co.jp/niigatacity/obsrain/obsrain_10min.html



新潟市の防災に関する情報

- 新潟市ホームページ「緊急災害情報」のページ
 - <http://kinkyu-city.niigata.jp/kinkyu/>
- 新潟市ホームページ「防災・災害」のページ
 - <http://www.city.niigata.lg.jp/curashi/bosai/>
- 新潟市の地域ごとの雨量、風速、風向
 - <http://dim2web03.wni.co.jp/niigatacity/pinpoint/>

メールサービスによる新潟市防災情報の入手先

新潟市では、防災情報伝達の手段として、「いしがた防災メール」と「危機管理防災局公式ツイッター」で防災情報を発信しています。災害に対する備えとしてお役立ていただくため、多くの皆様登録をお願いします。

- いしがた防災メール登録アドレス(QR1)
- https://www.city.niigata.lg.jp/curashi/bosai/index_jijyo/niigatabousaimail/mailyoukiyaku.html
- 危機管理防災局公式ツイッター(QR2)
- https://twitter.com/niigatacity_kib

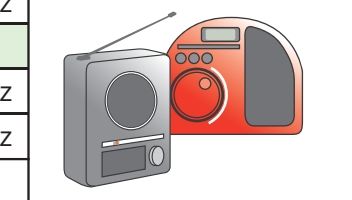
緊急告知FMラジオとは

新潟市では、緊急告知FMラジオを通じて、緊急地震速報、津波注意報、津波警報、大津波警報、国民保護事案、洪水などの緊急性の高い災害情報や、当該災害により発表された避難情報などをお伝えしています。
 このラジオは電源が入っていない状態でも、災害情報などの緊急信号を受信すると自動的に起動し最大音量でお知らせします。
 くわしくは危機管理防災局 危機対策課(025-226-1146)へお問い合わせください。



南区で受信できる代表的なラジオ放送の周波数

AMラジオ放送		
NHK第一	837kHz	BSN 1116kHz
FMラジオ放送		
NHK FM	82.3MHz	FM新潟 77.5MHz
FM PORT	79.0MHz	FM Kento 76.5MHz
FM 新津	76.1MHz	



ハザードマップの使い方について

大雨の際に自宅が浸水するかをハザードマップで確認し、避難所の位置、避難経路を確認しておきましょう。



① 自宅の位置に印をつけましょう

自宅の位置に印をつけたら、周辺の浸水深を確認しましょう。
 また、その浸水深がどの程度の深さなのかを、マップ内の「浸水深の目安」を参考に確認してください。



② 自分たちの避難方法を確認しましょう

内水はん濫では、浸水深が小さいため、一般住宅では2階へ、集合住宅では2階以上へ避難することが安全な場合も考えられます。(所有者や居住者から事前に了解を得ておく)ただし、河川堤防の決壊による外水氾濫や、地震による津波などの場合は、マップ内の深さ以上の浸水が生じる可能性が考えられるので、避難情報(テレビ・ラジオ等)に従い避難をしてください。



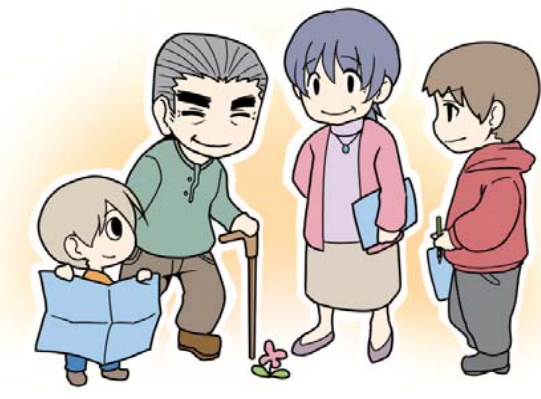
③ 実際に経路を歩いてみて安全か確認しましょう

設定した避難経路を実際に歩いて、地図に記載されていない地形(階段や地形変化等)や避難にかかる時間等を確認しましょう。
 歩く際も浸水をイメージし、安全に避難が行えるように準備しましょう。



④ 地域で協力して、より良いマップにしましょう

地域の方々と、災害や避難について話し合い、情報を共有しましょう。
 また、高齢者等の避難に支援が必要と思われる方についても、地域でできることを考え、市民のみさんの安全が確保できるようにしましょう。



浸水予防情報について

みなさんの住宅などを浸水から守るための助成制度がありますので活用してください。



① 防水板設置等工事助成制度について

大雨による住宅や店舗などへの浸水を防ぐため、敷地に設置する防水板の助成制度をご利用いただけます。詳しい内容は、下水道推進室(TEL:025-372-6661)へお問い合わせください。



防水板設置等工事助成制度

- 助成対象者:新潟市内に家屋、店舗、事務所等を所有または使用する方
- 助成区域:浸水被害(床上・床下・店舗・車庫浸水)が発生した、又は発生する恐れがある区域の家屋、店舗、事務所等

■ 工事費に対する助成率

助成率	上限額(建物1棟当り)
1/2	50万円

② 住宅かさ上げ工事助成制度について

集中豪雨や窪地などの地形的な要因により発生する浸水被害から、市民のみなさまの貴重な財産を守るため、住宅等のかさ上げについて、助成制度をご利用いただけます。詳しい内容は、下水道計画課(TEL:025-226-2979)へお問い合わせください。

住宅かさ上げ工事助成制度

- 助成対象者:新潟市内に住宅を所有する方
 - ※かさ上げ前の住宅高さの確認が必要となります。
 - ※敷に工事を実施済み実施中のものは対象外です。
- 助成区域:平成10年8月4日及びそれ以降に床上浸水被害が発生した区域
- 工事費に対する助成率

助成率 1/2、上限額 100万円(標準工事単価×建築面積×1/2=助成額)
ただし、支払額が標準価格より安くなる場合は、その支払額の1/2

③ 駐車場かさ上げ工事助成制度について

浸水被害の軽減を図るため、住宅に付属した駐車場のかさ上げ工事について、助成制度をご利用いただけます。詳しい内容は、防水板と同様に下水道推進室(TEL:025-372-6661)へお問い合わせください。

駐車場かさ上げ工事助成制度

- 助成対象者:新潟市内に駐車場を所有又は使用する方
 - ※駐車場は住居と同一敷地内にあり、居住者自ら使用する駐車場を対象とします。
 - ※建設の駐車場高より平均10cm以上、かつ前面道路より平均10cm以上のかさ上げ工事対象とします。
- 助成区域:浸水被害(床上・床下・車庫浸水など)が発生した、又は発生する恐れのある区域
- 工事費に対する助成率

助成率 1/2、上限額 10万円(標準工事単価×駐車場面積×1/2=助成額)
ただし、支払額が標準価格より安くなる場合は、その支払額の1/2